

8. さまざまな熱中症対策の取組事例

こども・家庭部局
教育委員会

保健・健康・福祉
部局

事例14. 神奈川県横須賀市 市立中学校・高校へのWBGT計測システム導入

- 従来、教職員は活動場所に行き、熱中症指数計を用いて手動で暑さ指数(WBGT)の実測・記録を行っていたが、このたび「熱中症予防対策システム」を導入し、暑さ指数の自動計測、常時監視を実現した。
- システム導入により、全教職員がどこにいても(学校、自宅等)、PC端末や個人端末から活動場所の暑さ指数をリアルタイムで確認できるようになり、生徒の見守り体制が強化され、健康安全の確保に繋がった。
- さらに、教職員による計測、記録の手間が削減され、教職員の負担軽減に繋がった。

【システム概要】

熱中症予防対策システム

WBGT（暑さ指数※）をセンサーで自動計測し、クラウド上にデータを保存することで、任意の場所で、常時、WBGT値を確認することを可能とするシステム

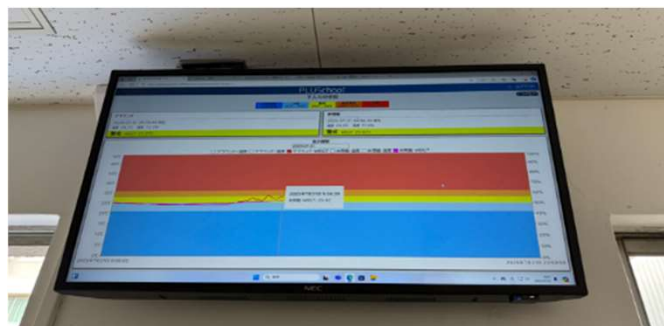
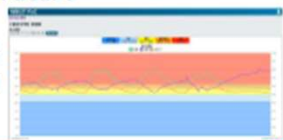
屋内センサーは簡単に設置可能な無線・電池レスデバイス



※WBGT（暑さ指数）

熱中症の危険度を判断するための暑さ指数で、Wet Bulb Globe Temperatureの略称。

気温、湿度、輻射熱を総合的に評価した指標で、熱中症予防の指針として用いられる。



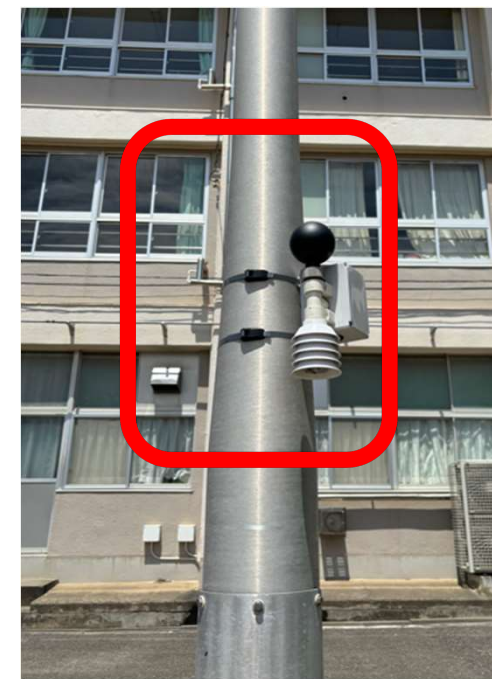
▲WBGT値表示モニター(下駄箱)



▲データ受信機



▲屋内センサー



▲屋外用WBGT計測器

■苦労した点

屋外センサーの設置にあたり、活動場所全体の暑さ指数をより正確に測定できる代表観測地点を決定するため、各学校においてきめ細かな現地調査を行ったこと。

■工夫した点

各学校で計測した暑さ指数が、その日に初めて31を越えた時点で、自動的に注意喚起メールを当該校に送信する仕組みを導入したこと。
「横須賀市立学校熱中症予防ガイドライン」に本システムの運用方法を明記し、学校での暑さ指数に応じた対応等の安全対策をより明確にしたこと。